「自主的安全性向上のためのリスク評価技術活用に関するPRAへの期待と活用のための取組」の講演会のご案内

リスク部会では、新検査制度において積極的な活用を期待されているPRAに関し、自主的な安全性向上の活動におけるPRAに対する役割、期待と国内のPRAの活用事例を整理し、米国動向を参考にして、PRAの現状と改善の方向性について 共通認識を得るための情報を提供するための講演会を開催いたします。幅広い視点でリスク評価に取組まれている学識者、PRAの活用に取り組んでいる研究機関の専門家、米国におけるPRAの活用情報に詳しいコンサルタントを講師としてお招きしました。日本原子力学会 春の年会を開催する大阪大学で春の年会の開始日の前日に開催いたしますので多数のご参加をお待ちしております。

日　時　2018年3月25日（日）13:00～17:00

会　場　大阪大学　吹田キャンパス　コンベンションセンター　会議室2　　　　https://facility.icho.osaka-u.ac.jp/convention/setubi.html

○プログラム（敬称略）
　開会の挨拶と趣旨説明：山口彰（リスク部会長、東京大学）

(1) 自主的安全性向上活動のためのPRAに関する提言: 野口和彦 (横浜国立大学)

原子力発電プラントの安全性を向上していくために、様々な活動へのリスクをどう活用するかという視点で、現在のPRAに適用されているイベントツリー、フォールトツリーを用いた手法の懸案を示し、新たな視点でのリスク評価技術に対する提言を説明する。

(2) 『Risk-Informed Decision Making: A Survey of United States Experience』におけるPRAの活用について：山中康慎(電力中央研究所）

原子力リスク研究センターが取りまとめた『Risk-Informed Decision Making: A Survey of
 United States Experience』におけるPRAの活用に関する期待を説明します。

(3) 米国における安全性向上活動のためのPRAの活用事例とグレードの考え方

(英語での発表)：Woody Epstein (Appendix R Solutions)

自主的安全性向上に関するPRA の指標やツール、ASME標準におけるPRAのカテゴリー分類の考え方、活用目的に応じたPRAの技術要件毎に必要とされるカテゴリーレベルの割り当ての考え方等の事例紹介

　(4) 総合討論

* 講演における主要ポイントに関する討議
* 研究専門委員会のテーマについて

　　　パネリスト：野口和彦、山口　彰、Woody Epstein、白井　孝治(電中研)

　　司会：成宮祥介　（リスク部会副部会長、JANSI）
　　閉会挨拶：丸山 結（副部会長、JAEA）

----------------------
参加費：無料
----------------------

申込み・問合せ先
risk2018-seminar@risk-aesj.sakura.ne.jp に下記を連絡願います。
　1)氏名（ふりがな）
　2)所属
　3)会員区分（正、非、学生）
　4)連絡先（E-mail/電話）

担当：MHI NSエンジ　河合勝則